

- ・ 開院 10 周年記念祝宴を終えて
- ・ 端午の節句
- ・ 健康相談室のあゆみ
- ・ 新スタッフ紹介

クリニック開院 10 周年記念祝宴を終えて

村口きよ女性クリニック院長 村口喜代

去る 3 月 29 日、「村口きよ女性クリニック 10 周年記念祝宴」を行いました。スタッフを始め、先輩諸氏、身近にお付き合いいただいた方々、そして家族・親戚からたくさんの温かいお祝いのお言葉をいただき、光栄の限り、凛と新たな気持ちになりました。

私は、自分の医師人生に「開業ということはない」とひたすら思いこんでいました。いろんなことが折り重なって先が見えなくなって、「私にもできるかもしれない」と、突然開業を決めました。「女性に優しい、女性が元気になるクリニック」、そんなイメージが頭に浮かびました。あれから 10 年が経ちました。「走り続けた日々」でした。

「女性が自ら立ち上がらなければ健康は作れない」、主体者は一人ひとりの患者さんです。

医療人は責任ある専門家集団としての支援者です。当たり前そのことを忘れずにこれからも医療人であり続けたいと思っております。

これまで積み上げてきた成果を誇りに大切に守り、時代を見据え、医療の行方、開業の立場でやらなければならないことを熟考しつつ、これからはじっくり歩を進めていきたいと思っております。今後ともご支援のほどをよろしくお願いいたします。



【端午の節句】



端午の節句の起原は、古代中国に遡ります。古来より中国では、物忌みの月(5月)に厄払いの行事が盛んに行われていました。端午の「端」は文字通り「はじ / 最初」の意味で、「午」は「うま」つまり端午とは、五月の最初の午の日に行われるという意味です。最初は必ずしも五月五日ではなかったようで、午と五のゴロが同じことから、やがて5が重なる重五の日、つまり5月5日に大切な厄払いの日として定着したそうです。

また端午の節句は、男の子の厄除けと健康祈願のお祝いとしての行事が、庶民の間にも定着していったお祝いで、単なるお祭りではなく、お七夜やお宮参りと同じく男の赤ちゃんのたくましい成長を願う行事。鎧兜や五月人形や鯉のぼりは、赤ちゃんに降りかかろうとする災厄や魔物を除けてくれる魔除けであり、災厄除けの守り神のようなものだそうです。

風に泳ぐ鯉のぼりは、日本の初夏の風物詩ですね。

「からだと性の健康相談室」のあゆみ

～患者さんのニーズに対応できる医療をめざして～ 看護主任 竹田理恵

当クリニックでは、厚生労働省の「妊娠について悩んでいる者に対する相談援助事業」に参加したことを機に、平成16年9月から「からだと性の健康相談室」を開設し、患者さんの不安や疑問に対して、助産師や看護師などのコ・メディカルが相談に応じてきました。

日々の診療の中では、患者さんの不安や疑問に出会うことが多く、時間をかけて話を聴く必要があると感じる局面がたくさんあります。しかし今の医療システムでは、業務をこなすことだけで忙しく、ゆっくり話を聴けないことにジレンマを抱えている状況です。

近年、ITなどからの情報量の増加や、社会全体の意識の向上から、自分自身の体についてきちんと知りたいと考える人が増えてきました。そのためか、ここ数年では、ホームページ上から健康相談室の存在を知り、申し込む方が増加してきています。健康相談室を開設したことで、診療の補足や患者さんの疑問や不安を解決するお手伝いができるようになり、多くの方々のニーズに応えられるシステムへと近づいてきたのではないかと感じています。

健康相談室に来院する方の年齢は、10代から50代まで幅広く、その内容は婦人科疾患や月経に関することから、彼との交際について、自分の娘のことなど、多岐にわたります。性をオープンに語ることの少ない現代社会の中で、一人きりで悩んでいて健康相談室にやっとの思いで辿り着き、「今まで誰にも話せなかったのが、話せただけですっきりしました」と笑顔で相談を終える方が少なくありません。性に関することは、生きることそのものにつながります。そのため、日常生活に密着した切実な悩みであることが多く、その背景はさまざまに根深いものがあります。今の世相を反映した貧困の問題、育児支援システムの問題、家族の関係の問題、パートナーとの関係の問題、などなど。

時には他の支援システムが必要と判断し、エル・ソーラ仙台（せんだい男女共同参画推進センター）などの女性支援センターに紹介することもあります。

健康相談室をおこなった件数は、今までの5年7カ月で425件になりました。担当のコ・メディカルが持てる知識を駆使しながら対応し、一度では解決の見通しがたらずに何回か相談に来院された方もいらっしゃいました。

今までの経験から得たものを糧に、それを皆様に返していくことができるよう、今後も研鑽を積み、よりよい方向を探っていきたいと思っています。

これからも末長くよろしくお願いいたします。



からだと性の健康相談室
con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

〒980-0852 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1 村口きよ女性クリニック
TEL 022-292-0166
FAX 022-292-0166
HP www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp

メール相談も受付中

新スタッフ紹介 助産師 宮本由美子（みやもとゆみこ）



今年の1月から、スタッフとして加わりましたニューフェイスです。今まで、妊娠、お産、赤ちゃんなどの周産期の仕事をしていました。現在は、思春期や更年期など、女性のライフサイクルの全てに関わる仕事に、とてもやりがいを感じています。

10年間、皆様の信頼を得て、さらに進化し続ける「きよくり」に勤務でき、心から喜ばしく、光栄な気持ちです。

【臨時休診】

・2010年6月5日（土）は、第8回思春期保健相談士学術研究大会のため休診となりますので、ご了承ください。

編集後記

東北地方でも、満開の桜シーズンとなりました。年に一度だけ、華やかに咲き誇る桜を見ていると、心満たされた気持ちになりますね。みなさん、もうお花見は楽しめましたでしょうか。

また、初夏のGWは絶好の行楽日和です！ 私たちもそれぞれの休暇を満喫し、また元気に頑張っています😊

発行元：村口きよ女性クリニック

http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp
e-mail:con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

